

### 史跡内に存在する石垣の改変状況一覧表

A : 75%以上残存、B : 25%以上残存、C : 25%以下残存、D : 全面解体 ※網掛け欄 単位 : m

地区	要素	No.	現 状							修理履歴		文献
			現況	残存率 ランク	天端幅	裾幅	左高	中高	右高	修理履歴	状況	
天守台	石垣	T-1	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴少なくほとんど野面、左隅角部に変則的な算木積	A	18	29	14	13	12	H4 天端のみ改修 H24 詰石補修	無し	県史甲府城 IV
		T-2	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴少なくほとんど野面、変則的算木積で粗割築石にはほぼ矢穴あり	A	21	35	25	14	14	H5 天端のみ改修 H17 詰石補修	無し	県史甲府城 IV 県史甲府城 H17 整備
		T-3	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴大きな築石にあり、ほとんど野面、隅角部変則的算木積で矢穴多い	A	17	21	17	17	16	H5 天端のみ改修 H24 詰石補修	無し	県史甲府城 IV
		T-4	築城期石垣、野面主体一部粗割、二分割石材(兄弟石)多い	A	14	18	8	8	8	H5 天端のみ改修 H24 詰石補修	無し	県史甲府城 IV
		T-5~T14	解体積み直し	D							有り	
		T-15	両隅角部改修済、未改修部分はほとんどない、築城期石垣、割石主体、築石大きめ石材	C	11	12	3	4	3	H5 裾部より上を改修	右側裾部は未改修	県史甲府城 IV 県史甲府城 V
		T-17	未改修部分はほとんど残らない、築城期石垣、割石主体一部野面、左隅角部稜線はつり変則的算木積あるが改修済	C	4	5	6	6	4	H5 裾部から中部に欠けて改修	右側裾部は未改修	県史甲府城 IV 県史甲府城 V
		T-18	右隅角部改修済、築城期石垣、野面主体一部粗割、築石矢穴なし、左隅角部変則的算木積稜線はつりあり、隅角部野面主体一部矢穴粗割あり	B	9	19	10	9	7	H5 天端から右裾部にかけて改修	天端から右側1/3 裾部まで積み直し	県史甲府城 IV 県史甲府城 V
本丸	石垣	H-1	左裾部は築城期石垣、これ以外は解体修理済、未改修部分は野面主体一部粗割、両隅角部に稜線はつりあるが改修済	B	23	23	9.4	9.4	8	H5 解体修理	左裾部 1/3 残して積み直し	県史甲府城 IV
		H-2	上半分は積み直し、築城期石垣、野面主体一部粗割、隅角部稜線はつり不明瞭だが変則的算木積あり、矢穴確認できず	B	3.1	4	7.5	7.5	7.8	H5 改修	中央より上を積み直し	県史甲府城 IV
		H-3	上半部 1/2 程解体修理済、未改修部分は野面主体一部粗割、築石不定形で矢穴確認できず	B	60	58	1	9	9	H9 解体修理	中央より上1/2 を積み直し	県史甲府城 IV, VIII
		H-4~H-6	新規石垣	—								
		H-7	築城期石垣									
		H-8~H-12	新規石垣	—								
		H13~H-25	解体積み直し	D							H9 積み直し	
		H-26	ほぼ全体を解体修理した江戸中期石垣、打込ハギ一部野面、算木積・反り・キオイがあるが改修済、解体した石材をそのまま使用して積み直し	C	18	21	10	8	6	H4, 5 に解体修理	右裾部をわずかに残してほぼ全体を積み直し	県史甲府城 IV
		H-27	階 段	—								
		H-28	右下隅角部のこのして解体改修済、粗割主体、右隅角部に変則的算木積あるが一部修理済、積み直しは旧石材をそのまま使用	C	10	15	5	7	8	H5, 8 に改修 H24, 25 詰石補修	右裾部を残し、裾から中央上部を積み直し	県史甲府城 VII
		H-29~H-31	解体積み直し	D								
		H-32~H-49	新規石垣	—								
H-50~H-58	解体積み直し	D										

地区	要素	No.	現 状							修理履歴		文献	
			現況	残存率 ランク	天端幅	裾幅	左高	中高	右高	修理履歴	状況		
本丸	石垣	H-59	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴少ない、隅角部変則的算木積	A	5	5	—	9	—	平成 4~5 に天端付近改修 H23 詰め石工事	無し	県史甲府城上巻	
		H-60	築城期石垣、野面主体一部粗割、大きな石材に矢穴、裾部に岩盤、右隅角部変則的算木積、左隅角部境界不明瞭、壁面暗渠有り	A	45	47	8	9	10	平成 4~5 に天端付近改修 H23 詰め石工事	無し	県史甲府城 IV 県史甲府城上巻	
		H-61	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴確認できず、右隅角部境界不明瞭、裾部に岩盤	A	4	5	—	9	—	平成 4~5 に天端付近改修 H23 詰め石工事	無し	県史甲府城上巻	
		H-62	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴少ない	A	7	17	9	9	9	平成 4~5 に天端付近改修 H23 詰め石工事	無し	県史甲府城上巻	
		H63~H65	解体積み直し	D									
		H-66	築城期石垣、野面主体一部粗割、鉄門正面石側	B	9	20					H4 に改修	左裾部から上部にかけて積み直し	県史甲府城 IV, VIII
		H-67	築城期石垣、野面主体一部粗割	A	9	17	—	—	—		平成 5. 9. 12 H22 詰め石工事	無し	県史甲府城 IV, VIII 甲府城鉄門整備
		H-68	新規石垣	—									
		H-69	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴確認できず、隅角部変則的算木積稜線はつり、築石横目地・団子積あり	A	22	32	10	9	9		H22 右隅角部から1/3 付近まで詰め石工事	無し	甲府城鉄門報告
		H-70	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴大きな築石にあり、右隅角部変則的算木積、控え短い築石多い、全体的に不安定	A	35	47	8	8	8		H23 詰め石工事	無し	
天守曲輪	石垣	Tn-1	ほぼ全面解体した江戸中期石垣の切り込みハギ。解体した石材をそのまま使用して積み直し	D									
		Tn-2	築城期石垣で未改修部分は野面主体、北側は江戸中期の切り込みハギ。南側は近代の積み直し。横に長い石材がある。未改修部に矢穴はなし	B	53	57	5	5	6		H2~3 に改修	中央部 1/3 ほどが未改修	県史甲府城 I
		Tn-3~4	解体積み直し	D									
		Tn-5	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴あるが主体は野面、左隅角部変則的算木積	A	64	66	6	7	9		H2~H3 に改修 H24. 25 詰石補修	右隅角部と築石部を積み直し	県史甲府城 V, VI
		Tn-6	築城期石垣、粗割主体で一部に野面	C	10.4	14	9.2	7.2	5.46		H7, 8 に改修	右側裾部を残して大部分を積み直し	県史甲府城 V, VI
		Tn-7~10	新規石垣	—									
		Tn11~14	解体積み直し	D								H7 積み直し	
		Tn-15A	築城期石垣、粗割主体で所々に野面が見られる。左側の出隅には矢穴やはつりがある。	B	21	46	4	6	6		H5 に改修	左下部分を除いて多くを積み直し	県史甲府城 IV
		Tn-16	築城期石垣、粗割主体だが、一部に野面。一つの石材に多くの矢穴がある	C	5.8	—	3.3	3.6	4		H7. 8 にほぼ全面改修	右下裾部を残して全面的に積み直し	県史甲府城 IV 県史甲府城上巻
		Tn-17	解体積み直し	D									
		Tn18~20	新規石垣	—									
		Tn-21	解体積み直し	D									
		Tn22~25	新規石垣	—									
		Tn26	解体積み直し	D									
		Tn27~29	新規石垣	—									
		Tn30. 31	解体積み直し	D									
		Tn32~36	新規石垣	—									

地区	要素	No.	現 状							修理履歴		文献	
			現況	残存率 ランク	天端幅	裾幅	左高	中高	右高	修理履歴	状況		
帯曲輪	石垣	0-1	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴あり、左隅角部石材縦使と矢穴あり、露出岩盤あり、全体的に孕みがある	A	34	33	4	7	4	未改修	無し	県史甲府城上巻	
		0-2	築城期石垣、野面主体一部粗割裾部に矢穴多い、右隅角部石材縦使	A	47	48	4	4	2	H7改修	右側、築石部を積み直し	県史甲府城上巻	
		0-3	新規石垣	—									
		0-4	築城期石垣、粗割主体一部野面、矢穴多い、左隅角部変則的算木積あるが解体改修済	B	7	—	5	5	4	H8解体改修	中央裾部をのこして両脇、上部を積み直し	県史甲府城 VI, VII	
		0-5	築城期石垣、未改修部は野面主体、隅角部のみ矢穴あり、未改修部分に算木積あり	B	9	10	5	5	59	H8解体改修	中央裾部のこして両脇、上部を積み直し	県史甲府城 VI, VII	
		0-6	築城期石垣、野面積み主体	C	9	8.8	5.4	4.7	4.2	H7.8改修	右下裾部を残して全面的に積み直し	県史甲府城 VI, VIII	
		0-7~9	解体積み直し	D						H8解体改修			
		010~12	新規石垣	—									
		二の丸	石垣	N1~14	解体積み直し	D						H6解体改修	
N-15.16	階段			—									
N-17	解体積み直し			D									
N18~25	新規石垣			—									
N-26	築城期石垣、野面主体一部粗割、裏栗石流出			A	5	7	3	3	3	未改修 H28詰石補修	無し		
N-27	築城期石垣、右隅角部築石部 1/3 崩落、詰石欠落			A	—	—	—	—	—	未改修	無し		
N-28	築城期石垣、全体崩落			A	—	—	—	—	—	未改修	無し		
N-29	築城期石垣、石段形状保持 10 段			A	—	—	—	—	—	未改修	無し		
N-30	築城期石垣、野面主体、崩落の虞			A	—	—	—	—	—	未改修	無し		
N-31	築城期石垣、野面主体一部粗割、不安定			A	—	—	—	—	—	未改修	無し		
N-32	築城期石垣、崩落の虞			A	—	—	—	—	—	未改修	無し		
N-33	築城期石垣、雑草繁茂			A	—	—	—	—	—	未改修	無し		
N-34	築城期石垣、野面主体一部粗割矢穴少ない、坂下門礎石埋設保存			A	17	17	3	4	4	未改修 H28詰石補修	無し	県史甲府城上巻	
N-35	明治期石垣粗割主体の打込ハギ、左隅角部変則的算木積			D	9	10	4	4	5	明治期に全面改修	無し	県史甲府城上巻	
N-36	明治期石垣粗割主体の打込ハギ、右隅角部変則的算木積石材縦使あり、左隅角部に空洞			D	7	—	8	7	6	明治期に全面改修	無し		
N-37	江戸期の構築か。野面、粗割石の布積み崩しが基本だが、左裾部から右天端に打ち込みハギがみられる			D	18.8	—	9.5	—	—	裾部から天端にかけて明治期に改修	無し		
N-38	野面石、粗割石主体。隅角部に矢穴あり。左隅角部にはつり			B	10.6	10	7.5	7.5	8.5	天端から中部にかけて明治期改修	無し		
N-39	築城期石垣、野面主体一部粗割、改修済と未改修の差が顕著、裾部に矢穴ある大きな石	A	30	31	—	—	8	H5天端のみ改修	無し	県史甲府城上巻			
N40~44	新規石垣	—											
N-44	築城期石垣、粗割主体だが野面も多い、矢穴ある大きな石があるが、矢穴ない割石も多い、出積変更箇所あり、孕みだしあり	A	78	82	4	6	7	S30石垣右上、H8~9左隅角部、H18天端、詰石補修	有り、天端のみ	県史甲府城 H18報告			

地区	要素	No.	現 状							修理履歴		文献
			現況	残存率 ランク	天端幅	裾幅	左高	中高	右高	修理履歴	状況	
二の丸	石垣	N-45	野面石主体で、一部に粗割石。石材の横使いがある。矢穴はみられない。	B	20	20	—	—	—	H8,9に右裾を残して、改修	有り、解体時に石臼など石造物有り	県史甲府城 VII
		N-46	解体積み直し	D								
稲荷曲輪	石垣	I-1.2	新規石垣	—								
		I-3	築城期石垣、野面主体一部粗割、未改修部に矢穴多い	A	100	109	13	10	10	H8、H13～14改修、H27 詰石補修	稲荷櫓下石垣2/3積み直し、H23修繕工事で詰石叩締交換	県史甲府城 VII 稲荷台改修工事報告
		I-4	未改修部分は野面主体で一部矢穴ある粗割、改修部分は粗割主体、築城期石垣、粗割主体一部野面、隅角部変則的算木積があるが改修済、左隅角部に变化するノリ返し勾配あったが、改修により現在はみられない	B	22	26	13	13	13	H8、H13～14は稲荷櫓復元に伴う石垣改修	稲荷櫓下3/4積み直し	県史甲府城 VII 稲荷台改修工事報告
		I-5	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴確認できず、露出岩盤あり、築石小さい	B	17	—	—	6.1	—	大正時代改修、露岩左は改修済	根石三段築石残存	県史甲府城 H16 報告
		I-6～8	新規石垣	—								
		I-9～14	解体積み直し	D						H8 積み直し		
		I-15～29	新規石垣	—								
		I-30	築城期石垣、野面主体一部粗割、詰石工事済み、両隅角部変則的算木積、右隅角部に石材縦使い、割損ね矢穴痕あり	A	27	36	8	7	6	H9～10に天端新補石材で積直し H28 詰石補修	無し	県史甲府城 V, VII 県史甲府城上巻 県史甲府城 H22 報告
		I-31	築城期石垣、野面主体一部粗割、詰石工事済み、右隅角部変則的算木積団子積あり	A	3	3	—	8	—	H9～10に天端新補石材で積直し H28 詰石補修	無し	県史甲府城 V, VII 県史甲府城上巻 県史甲府城 H22 報告
		I-32	築城期石垣、未改修部は野面主体で改修部は粗割主体、詰石工事済、左隅角部変則的算木積割れ多い	A	35	40	13	12	9	H9～10に天端新補石材で積直し H28 詰石補修	無し	県史甲府城 VII 県史甲府城上巻 県史甲府城 H22 報告
		I-33～34	新規石垣	—								
		I-35	築城期石垣、粗割主体一部野面、矢穴少ない、隅角部変則的算木積、現存石垣中最も高い	A	37	35	6	18	17	H10に天端新補石材による積直し	無し	県史甲府城 VII 県史甲府城上巻
		I-36	築城期石垣、粗割主体で、一部に野面がみられる。粗割には矢穴が少ない	B	10.3	15	5.7	5.3	5.7	H7.8に右裾部あたりを残して積み直し	有り。	県史甲府城 VII, VIII
		I-37～39	復元石垣	—								
		I-40	築城期石垣、野面主体改修部分は粗割、矢穴少ない、右隅角部が数寄屋石垣により埋め殺し	A	41	38	4	—	5	H4、H8 天端を改修	H9 積み直し	県史甲府城 III, VIII
		I-41～47	解体積み直し	D								
		I-48.49	新規石垣	—								
		I-50～60	復元石垣	—								
		I-61～74	解体積み直し	D								
		I-76	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴なし、二重石垣の内側石垣	A	6	—	—	2	—	H6.8 解体にて検出	無し	県史甲府城 V, VII 県史甲府城上巻
I-75、I-77	I-76にとりつく石段、I-75.77ともに6段	A	—	—	—	—	—	H8 解体で検出	無し	県史甲府城 V, VII 県史甲府城上巻		
I-78.79	解体積み直し	D										
I-80	築城期石垣、粗割主体一部野面、矢穴少ない、左隅角部に変則的算木積	A	9	12	4	3	4	H6 解体にて I-82 撤去後背後より検出、I-82と同じ野面積みで築城期その直後に積直し、H22 詰石	無し	県史甲府城 V, VII		

地区	要素	No.	現 状						修理履歴		文献	
			現況	残存率 ランク	天端幅	裾幅	左高	中高	右高	修理履歴		状況
数寄屋曲輪	石垣	S-1	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴極少い、算木積無し、左隅角部直線勾配	A	17	13	10	9	8	H9~10天端新補石材による積直し、H20 詰石 R1 詰石補修	無し	県史甲府城上巻 県史甲府城 H20 報告
		S-2	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴極少い、右隅角部3段ほど算木積	A	47	50	8	9	11	H9~10天端新補石材による積直し、H19.20 詰石 R1 詰石補修	無し	県史甲府城上巻 県史甲府城 H19 報告 県史甲府城 H20 報告
		S-3	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴補どんど無し多くは野面、左隅角部変則的算木積か	A	9	10	8	8	8	H9~10天端新補石材による積直し、H19 詰石 R1 詰石補修	無し	県史甲府城 III 県史甲府城上巻
		S-4	築城期石垣、粗割主体で矢穴のある割石もある。野面はほとんどなし。隅角部に稜線を出すハツリあり	B	14.2	—	6.2	5.5	4.6	H3~4に改修	左裾部から右天端にかけて積み直し。	県史甲府城 III 県史甲府城上巻
		S-5~9	解体積み直し	D						H4に改修		
		S-10	築城期石垣。粗割主体だが、矢穴は見られない。裾部のみが築城期石垣。	C	6	—	—	3.2	—	H3.4に改修。	裾部以外は全面積み直し。	県史甲府城 I, III
		S-11	築城期石垣、粗割主体であるが矢穴は少ない。矢穴は裾部の石材にみられる	B	12.8	12	4.4	4	4.6	H3~4改修	右裾部から左天端にかけて積み直し。	県史甲府城 I, III 県史甲府城上巻
		S-12	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴少ない、隅角部左は1-40へ連結	A	20	20	2	6	6	H3~4に中部から天端改修	無し	県史甲府城 I, III 県史甲府城上巻
		K-1~16	新規石垣	—								
		K-17~27	解体積み直し	D								
		K-28A	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴なし、28Bと連続	A	33	55	6	6	—	H10に天端新補石材による積直し R1 詰石補修	無し	県史甲府城 I, III 県史甲府城上巻 県史甲府城 H19 報告
		K-28B	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴なし、数寄屋檜台、石垣上部には細かな割石	A	11	(55)	10	10	10	H10に天端新補石材による積直し R1 詰石補修	無し	県史甲府城 I, III 県史甲府城上巻 県史甲府城 H19 報告
K-29	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴なし、変則的算木積ない	A	10	—	6	6	6	H10に天端新補石材による積直し	無し	県史甲府城 III 県史甲府城 H19 報告		
K-30	築城期石垣、野面主体。矢穴はみられない。大部分が積み直し	C	6.29	—	—	—	3.2	H3.4に改修。改修前から大規模に崩落。	右側10程を残して中央部は間知積みとなっている。裾部に胴木。	県史甲府城 II		
K-31.32	新規石垣	—										
K33	復元石垣	—										
K34	新規石垣	—										
K-35	築城期石垣、野面主体一部粗割、全体的に矢穴は少ない。隅角部は改修済みで、算木積みとなっている	A	43.5	47	—	—	—	H4.5に改修	両隅角部裾から天端にかけて積み直し	県史甲府城 II, IV		
K-36	解体積み直し	D										
K-37	築城期石垣、野面積み主体。左側裾部に築城期石垣が残る。	C	70.8	—	5.1	5.9	6.4	H4に改修	左側裾部を残して全面積み直し。	県史甲府城 II		
K-38.39	新規石垣	—										
K-40	解体積み直し	D						H6解体				
K-41	新規石垣	—						H6解体				
K-42~43	解体積み直し	D						H6解体				
K-44	新規石垣	—						H6解体				
K-45~49	解体積み直し	D						H6解体				
K50~65	新規石垣	—										
K-66	解体積み直し	D										
K-67.68	新規石垣	—										
K-69~82	解体積み直し	D										
K82~85	新規石垣	—										
鍛冶曲輪	石垣	K-1~16	新規石垣	—								
		K-17~27	解体積み直し	D								
		K-28A	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴なし、28Bと連続	A	33	55	6	6	—	H10に天端新補石材による積直し R1 詰石補修	無し	県史甲府城 I, III 県史甲府城上巻 県史甲府城 H19 報告
		K-28B	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴なし、数寄屋檜台、石垣上部には細かな割石	A	11	(55)	10	10	10	H10に天端新補石材による積直し R1 詰石補修	無し	県史甲府城 I, III 県史甲府城上巻 県史甲府城 H19 報告
		K-29	築城期石垣、野面主体一部粗割、矢穴なし、変則的算木積ない	A	10	—	6	6	6	H10に天端新補石材による積直し	無し	県史甲府城 III 県史甲府城 H19 報告
		K-30	築城期石垣、野面主体。矢穴はみられない。大部分が積み直し	C	6.29	—	—	—	3.2	H3.4に改修。改修前から大規模に崩落。	右側10程を残して中央部は間知積みとなっている。裾部に胴木。	県史甲府城 II
		K-31.32	新規石垣	—								
		K33	復元石垣	—								
		K34	新規石垣	—								
		K-35	築城期石垣、野面主体一部粗割、全体的に矢穴は少ない。隅角部は改修済みで、算木積みとなっている	A	43.5	47	—	—	—	H4.5に改修	両隅角部裾から天端にかけて積み直し	県史甲府城 II, IV
		K-36	解体積み直し	D								
		K-37	築城期石垣、野面積み主体。左側裾部に築城期石垣が残る。	C	70.8	—	5.1	5.9	6.4	H4に改修	左側裾部を残して全面積み直し。	県史甲府城 II
		K-38.39	新規石垣	—								
		K-40	解体積み直し	D						H6解体		
		K-41	新規石垣	—						H6解体		
		K-42~43	解体積み直し	D						H6解体		
		K-44	新規石垣	—						H6解体		
		K-45~49	解体積み直し	D						H6解体		
K50~65	新規石垣	—										
K-66	解体積み直し	D										
K-67.68	新規石垣	—										
K-69~82	解体積み直し	D										
K82~85	新規石垣	—										

史跡甲府城跡内に設置された石碑一覧表

	名 称	設置年月日	碑の内容	状態
1	小田切謙明碑	昭和 11 年 11 月	自由新聞を明治 12 年 5 月設立。板垣退助と共に自由党を結成し、山梨県の文化の発展に努めた。	鍛冶曲輪に現存
2	雨宮鈍齋翁碑	明治 18 年 12 月	雨畑硯の元祖（花紋入りの硯）	身延町富士川クラフトパークに移設
3	明治天皇御製碑	大正 13 年 11 月	明治天皇が明治 13 年 6 月 19 日に来県し、その途中舞鶴城址にお立ち寄りになり歌を詠んだ。	鍛冶曲輪に現存
4	一瀬桑由来之碑	昭和 16 年 4 月	現代桑の品種を発見した。	市川三郷町歌舞伎文化公園に移設
5	笹子隧道記念木	明治 38 年春	中央線八王子～甲府間の難所笹子隧道の開通記念。着工明治 29 年 12 月、竣工明治 35 年 11 月。	大月市笹子駅に移設
6	史跡 甲府城跡	昭和 47 年 4 月 2 日	甲府城跡	稲荷曲輪に現存
7	母の光碑	昭和 37 年 3 月	家庭教育の中心である母親を敬う心を県民に養うため。	甲府市母子生活支援施設に移設
8	明治天皇御登臨之趾	明治 13 年 3 月	明治天皇が明治 13 年 6 月、舞鶴城天守台跡に立ち県土を見た場所。	天守台に現存
9	謝恩碑	大正 11 年 3 月	山梨県が明治 40 年 8 月、台風に襲われ多大の被害を被ったおり、明治天皇より御料地を賜った。その感謝の気持ちを表した碑。	本丸に現存
10	飯田蛇笏碑	昭和 38 年 10 月	境川に生まれ、雲母を主催しその格調高い清韻を全国に広めた。	甲府市芸術の森公園に移設
11	八田翁碑	昭和 3 年 12 月	桑の品種、製糸繊維を改良し、山梨県の養蚕の発展に努めた。	笛吹市ホテル八田に移設
12	野口英夫碑	昭和 4 年 3 月	山梨日日新聞を設立。県議会議長。山梨県の経済発展に努めた。	甲府市丸の内公園へ移設
13	金辺八三郎碑	昭和 39 年 11 月	47 年間にわたり山梨県の柔道発展に努めた。	甲府市小瀬スポーツ公園へ移設



